PRESS RELEASE

令和元年 11 月 5 日

公益財団法人東京都歴史文化財団
東京都現代美術館文化共生課

バリエーションズ ― アートの可能性

公益財団法人東京都歴史文化財団東京都現代美術館文化共生課では、東京都と連携しながら、芸術を通じた共生社会の実現を目指し、さまざまな作り手の作品展示等の事業を行っています。今回は、渋谷ヒカリエ８/において、「バリエーションズ―アートの可能性」を共通タイトルに掲げるトーク＆パフォーマンス及び展覧会を開催します。バリエーションズ（Variations）は、音楽用語で変奏曲を意味します。ある主題をもとにして、その旋律をいろいろに変化させたものからなる「変奏曲」のバリエーションのように、さまざまな背景を持つ研究者やアーティスト、ダンサー、キュレーターが集い、視点を共有することで、参加者と共に多様なアートの可能性を思い描き、未来へと繋げていく機会を作り出します。

トーク＆パフォーマンス概要

イベント名：「共生のヒント」

出　演　者：熊谷晋一郎、小林エリカ、砂連尾理、山峰潤也、クリスティン・スン・キム（ビデオメッセージ）

開催日時：2019 年 12 月 5 日（木）　18：00～19：45

会　　場：渋谷ヒカリエ 8 階 8/COURT（東京都渋谷区渋谷 2-21-1）

参　加　料：無料　（ 要事前申込み ※ 定員 80 名 ）

主　　催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 文化共生課

※バリエーションズトーク＆パフォーマンス事務局（㈱ノット内）　TEL:03-5784-0870　E-mail:tskg-variations@knot-inc.co.jp

展覧会概要

展覧会名：「Artists－在り続ける表現者たち」

出展作家：川戸由紀、川村紀子、田島絵里、谷本光隆、山野将志

会　　期：2019 年 12 月 5 日（木）～12 月 11 日（水）

開場時間：11：00～19：00（最終日は 17：00 終了）

会　　場：渋谷ヒカリエ 8 階 MADO（東京都渋谷区渋谷 2-21-1）

入場料：無料

主　　催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 文化共生課

企画協力：con*tio（一般社団法人 Arts Society Asian Network）

お問合わせ

東京都現代美術館　文化共生課文化共生係

〒135-0022　東京都江東区三好 4-1-1

Tel：03-5245-1153（直通）　Fax： 03-5245-1141

E-mail：inclusion@mot-art.jp

URL：https://inclusion-art.jp

トーク＆パフォーマンスのみどころ

アートにおける非言語的なコミュニケーションの力は、共生社会の実現にどのような役割をもちうるでしょうか。多彩な登壇者のディスカッションやパフォーマンスから、今後、アートが異なる人々の間をどのように繋いでいけるかを考えます。

■内容

・趣旨説明、展示案内
・熊谷晋一郎氏プレゼンテーション
・全体ディスカッション
・クリスティン・スン・キム（Christine Sun Kim）ビデオメッセージ上映
・砂連尾氏・佐々木氏による即興のダンス上演

■出演者プロフィール

熊谷 晋一郎（くまがや　しんいちろう） 医師、当事者研究

東京大学先端科学技術研究センター准教授、小児科医。新生児仮死の後遺症で脳性マヒになり、以後車いす生活となる。東京大学医学部医学科卒業後、千葉西病院小児科、埼玉医科大学小児心臓科での勤務、東京大学大学院医学系研究科博士課程での研究生活を経て、現職。

小林 エリカ（こばやし　えりか） 作家・マンガ家

『マダム・キュリーと朝食を』で第 27 回三島賞候補、第 151 回芥川賞候補、『トリニティ、トリニティ、トリニティ』（共に集英社）、コミック『光の子ども 1–3』（リトルモア）など。歴史資料を丹念にリサーチすることで過去の記憶と現在とを結びつけ映像、ドローイング、テキスト等からなる美術作品も多数発表している。

砂連尾 理（じゃれお　おさむ） ダンサー、振付家　※パフォーマンス出演含む

「TOYOTA CHOREOGRAPHY AWARD 2002」にて、「次代を担う振付家賞」（グランプリ）、「オーディエンス賞」を W 受賞。04 年、京都市芸術文化特別奨励者。08 年度文化庁・在外研修員として、ドイツ・ベルリンに 1 年滞在。現在、立教大学現代心理学部・映像身体学科特任教授。

山峰 潤也（やまみね　じゅんや） キュレーター

水戸芸術館現代美術センター学芸員。文化庁メディア芸術祭事務局、東京都写真美術館、金沢 21 世紀美術館を経て現職。現代美術やメディアアートを通じて社会課題に接続するキュレーションで知られ、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会による TOKYO2020 NIPPON フェスティバル「共生社会の実現に向けて」のキュレーター。

クリスティン・スン・キム　アーティスト　※ビデオメッセージ出演

パフォーマンスやドローイングに音の要素を用いて、聴覚を持たない自らの環境と、言葉の関係性を探る作品を制作する。主な展覧会にウォーカーアートセンター（ミネアポリス）、サンフランシスコ近代美術館、ホイットニー美術館（ニューヨーク）、ニューヨーク近代美術館・MoMA PS1（ニューヨーク）。

※パフォーマンス出演のみ

佐々木 大喜：仙台在住のダウン症のダンサーで、みやぎダンス、すんぷちょというダンスグループに所属。砂連尾氏とは、2011 年せんだいメディアテークで実施されたプロジェクトでコラボレーションを披露。

展覧会のみどころ

創ることを続け、表現者として在り続ける５名のアーティストを紹介します。心地よさやこだわりや切実さに素直に向き合うそれぞれの作品世界が、新鮮な驚きや共感を運びます。

■作家プロフィール

川戸 由紀（かわど ゆき）

1984 年生まれ。神奈川県在住。アートかれん（社会福祉法人かれん）に所属。テレビ番組のキャラクターを絵画や刺繍で表現し、コマ撮り映像作品の制作も行う。

川村 紀子（かわむら のりこ）

1973 年生まれ。神奈川県在住。studio COOCA に所属。色鉛筆を使用し、雑誌や本を見て気に入ったモチーフを描くスタイルを続ける。

田島 絵里（たじま えり）

1985 年生まれ。埼玉県在住。工房集（社会福祉法人みぬま福祉会）に所属。直線表現を多く用いてキャラクターや文字を描く。

谷本 光隆（たにもと みつたか）

1974 年神奈川県生まれ。長崎県在住。2000 年より発表活動を始める。近年はコラージュ作品を多く発表している。

山野 将志（やまの まさし）

1977 年生まれ。奈良県在住。たんぽぽの家アートセンターHANA（社会福祉法人わたぼうしの会）所属。動物や昆虫、植物などをモチーフに制作を行う。

川戸 由紀

《2019 年 9 月 1 日》（2019 年）

川村 紀子

《はだかんぼ》（1992～1999 年頃）

田島 絵里

《セーラームーン》（2004 年）

谷本 光隆

コラージュブック「思考の妨げ」より

山野 将志

《お水飲んでるラクダさんの絵》（2010 年）